



**主語と動詞の一致** → 教科書第2課①

フィンランド語では、主語の人称(1人称・2人称・3人称)と数(単数・複数)に合わせて動詞の形が変わります。上の例では、日本語の「だ」「です」に当たる動詞として **on** が使われていますが、これは、主語が「これ」や「それ」あるいは「彼」や「彼女」といった3人称単数の時に使われる形で、例えば、主語が「私」のように1人称単数になると、同じ「だ」「です」でも、動詞の形は **olen** に変わります。

例) 彼は学生です。	Hän	on	opiskelija.
	彼(主格)	動詞(3人称単数)	学生(主格)
私は学生です。	Minä	olen	opiskelija.
	私(主格)	動詞(1人称単数)	学生(主格)

**修飾語句** → 教科書第1課②

主語や補語として使われる名詞は、修飾語句を使って修飾することができます。修飾語が形容詞の場合、形容詞+名詞の語順になり、形容詞は名詞と同じ格になります。

例) 彼は有名な作曲家です。	Hän	on	kuuluisa	säveltäjä.
	彼	動詞	有名な(主格)	作曲家(主格)

一方、「～の」で修飾されている場合は、名詞が主格でも修飾語は属格になります。属格には語尾 **-n** がつきます。

例) 彼は[この歌の]作曲家です。	Hän	on	tämän laulun	säveltäjä.
	彼	動詞	この歌(属格)	作曲家(主格)

ただし、日本語が「～の」となっても属格にならない場合があるので注意しましょう。次の例の「日本人の」は形容詞なので、「作曲家」と同じ主格になっています。

例) 彼は日本人の作曲家です。	Hän	on	japanilainen	säveltäjä.
	彼	動詞	日本人(主格)	作曲家(主格)